

令和7年度 第3回学校運営協議会

日時：令和8年3月4日（水）15：30～16：55

会場：大阪府立豊中高等学校能勢分校 会議室

出席者：8名

能勢分校会議室において、第3回学校運営協議会を開催しました。学校運営協議会委員4名、学校側からは准校長、教頭、首席、教諭が出席しました。

3回目の運営協議会では、学校運営協議会要項に沿い、今年度の能勢分校の取組み総括や来年度の方向性について議論しました。

○・・・委員の方の発言

*・・・本校職員の発言

1. 開会挨拶（准校長）

2. 協議

（1）「第2回授業アンケート結果について」

*授業アンケートの説明。1回目よりも2回目のほうが、結果が高くなる傾向。

1年生 「生徒意識1，2」が伸びているのは良い傾向。

2年生 「生徒意識」がやや低いのが課題。

3年生 全般的に数値が良い。

○アンケートをすればそれで終わりか。数値が変わった場合、生徒に聞くことはないのか。

このデータは教員の改善を促すものなのか？

*数値の変化を生徒が直接知ることではない。教員の授業改善のために使われるもの。

○2年生が下がっている理由としては？

*学年全般的に低下している。

○各教員が自己反省で改善できるようなものか？

*2年生となり授業内容が高度化し、そこで取り組みや生徒理解がうまくいかないことがある。

○他校の傾向では1年生に低い数値が出ることが多いが、本校の1年生の実態は？

*1年生は α ・ β クラスに分かれるが、 α クラスでも学び直しから入ることもある。むしろ選択科目が多い2年生で、難度の上昇に躓く生徒が多いのではないか。

○「生徒取組1」がどの学年も低い。生徒も自覚しているであろうが、そこについては課題意識を持ち続ける必要がある。

（2）「学校教育自己診断結果について」

*昨年度よりも全般的に低下している。

<生徒> 上昇 「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」

「いじめについて真剣に対応してくれている」

低下 「学ぶことに対する意欲がある」

「得意や苦手に応じた学習ができています」

<保護者> 上昇 「学校のできごとや諸連絡について情報を得ている」

低下 「生活指導の方針」「進路や職業への適切な指導」 →丁寧な保護者への説明が必要
<教職員> 高評価 「地域の課題解決につながる学習ができて」「課題探究能力を高めている」
低下 「家庭学習を充実させる工夫」「授業や講習により学習意欲や学力を高めている」

○保護者・教職員の数値が大きく下がっているのが目立つ。大人側の自己反省が伺える。

*5年前に比べ、中学校時代に学校に行けていなかった生徒の入学が増え、宿題や学習習慣などが定着していない生徒が増えたように思う。学力面で保護者、学校がどのようにサポートしていくのかも課題。

○保護者と教職員との共通認識が少し薄いのではないかと。自宅学習の促しなど保護者とのコミュニケーションが必要となってくるのではないかと。

また、生徒の「学校に行くのが楽しい」が増加しているのは評価点。

○今の高校生と保護者の関係性は、小中に比べ本人と保護者との関係が薄れる中、保護者のアンケート結果をどこまで気にするべきなのか。中学校では子と保護者のアンケート結果に差があまりなく、全般的に高評価。

高校生となって子が保護者に学校の出来事を言わないことが、今回の保護者の結果に繋がっているのでは。

*アンケート項目に「わからない」欄もあり、保護者がそれを選ぶ場合もあるのでは。

○次回は「わからない」に印をつけた件数も確認するべきではないかと。

○生徒・保護者の「能勢分校に入ってよかった」が低下しているが。

*卒業した3年生は「この学校でよかった」と話していた。3年間を通して「能勢分校に入ってよかった」という意識を高めていければ。

(3)「能勢分校の取組みについて(分掌・学年・教科等の総括)」

○全学年で「提出物の期限を守る」が課題に挙がっているが、実態はどうか?

*指示や掲示を見て、自分で行動することが課題。

*学年によっては、タスク管理のクラス係をつくり、クラス全体で提出物を守るという意識を高めようとしている取組みもある。

○中学校では、アプリを活用し提出物について保護者連絡が入るようになっている。

○提出物を出さないことへのペナルティはあるのか。社会に出たら期限を守ることは必要となる。

*教科担当者の判断による。

*1年生段階から、3年間を通した期限を守る意識の積み上げが必要。1度の全体連絡では理解できないこともあるので、個別連絡なども必要となる。

○課題探究GSなど社会を見据えた授業がある中で、期限を意識し、守る意識を高めることは大切となる。

(4)「学校経営計画及び学校評価について」

*R8年度の学校経営計画にあたり、前年から変えた点について説明

- ・授業力の向上 … 外部向けの公開授業の機会、R10年度に向けたカリキュラム変更検討
- ・「挑戦」「協働」「創造」 … 生徒主体のルールメイキングやソーシャルスキルトレーニング
フィリピンとの姉妹校提携、生成AI教育の充実
- ・地域との協働 … 小中高一貫教育の深化
- ・組織運営 … 能勢町外の生徒へのアプローチ教化、通学の交通手段問題への打ち手
開校10周年の魅力発信

○池田市や箕面市在住の人で、能勢分校に興味を持っている人の噂は聞く。何かもう一押しがあれば。

- *学校説明会では、町外の方で関心を持つ人もいるが、学年規模の少なさや交通問題などで難色を示される。
- *説明会では、高槻市や和泉市在住だが、関心を持って問い合わせしてきた人もいた。特色のある学校というのは伝わっているのでは。
- 能勢町役場の中でも、交通手段については議題にあがっている。
- 能勢電鉄妙見口駅利用者は能勢分校生も多く、分校がなくなることは能勢電や豊能町にとっても問題であり、危機意識を持って議論しようという機運がある。山下駅（川西市）も含めて、電鉄や自治体の議論に能勢分校生の声や参加が反映できれば良いのでは。それは学校の取り組む「地域課題」の面でも有意義ではないか。
- 川西市の他の高校と連携し、能勢電沿線での繋がりをつくった上で、能勢分校の独自性をアピールするのの一つの手ではないか。能勢分校だけが閉じているのではなく、オープンに。

【各委員よりひとこと】

- 卒業生として、時代と共に変わっていることを感じる。学校が大切にする「経験値」は、人とのつながりを育む上で大切だと思う。
- とても面白い学校なので、もう二押しだと思う。
- 今まで続けてきたことを、引き続き取り組んでいかなければと思う。少子化の中、今の人数を維持できれば。
- 入学する生徒の様子も時代と共に変わっているのが伺える。教員間で情報共有しながら現代の生徒や保護者に対応し、見極める視点が大切となる。また、社会で通用する「経験値」（例えば、提出物の期限を守る）の育成を、教員も意識していくことが大切。少しずつ学校外との連携や、そのリソースを活用していくことも大事。

3. その他

次年度の学校運営協議会について